

## 防災に関するアンケート調査結果について

《令和6年10月12日（土）福井県総合防災訓練時実施》

### 1 アンケート調査の実施について

#### (1) 調査目的

津波避難時における住民の避難場所や避難方法、また防災意識の変化等を把握することで、今後の住民の防災対策の強化に繋げていく。

#### (2) 実施方法

令和6年10月12日（土）の福井県総合防災訓練において別添アンケート用紙を配布し、訓練参加者が用紙に記入、またはQRコード読み取りによるweb回答により実施

### 2 調査結果について

・アンケート回答者：計251名（内訳）アンケート用紙回答：240名、QRコード回答：11名  
 ※各問のとなりに記載してる回答率は、『回答者数/251名』で算出

#### ■お住まい・年齢について

問1 お住いの地区はどちらになりますか

選択肢	回答者数	回答率	選択肢	回答者数	回答率
小浜地区	94	37.5	遠敷地区	0	0
雲浜地区	25	10.0	今富地区	11	4.4
西津地区	110	43.8	口名田地区	0	0
内外海地区	1	0.4	中名田地区	0	0
国富地区	3	1.2	加斗地区	6	2.4
宮川地区	0	0.0	その他	1	0.4
松永地区	0	0.0	計	251	100.0

→鯖江市

回答率	100%
-----	------

#### 《回答結果の考察》

・今回の総合防災訓練では、地震発生に伴う津波避難訓練であり、沿岸5地区（小浜、雲浜、西津、内外海、加斗）の地域住民へ避難訓練参加を呼び掛けた。そのため、沿岸5地区にお住まいの方の回答率が高くなっており、さらに、地区の自主防災組織などが中心となり訓練に参加した西津や小浜の割合が多い結果となった。

問2 年齢を教えてください

選択肢	回答者数	回答率
17歳以下	13	5.2
18歳～30歳代	15	6.0
40歳代～64歳まで	133	53.0
65歳～74歳まで	58	23.1
75歳以上	32	12.7
計	251	100.0

回答率	100%
-----	------

#### 《回答結果の考察》

・30歳代までは子育てや家事等の理由で参加者数が伸びなかったと考えられ、40歳代以降の参加者が多くっている。また、65歳以上が36%を占めており、津波避難への関心の高さが目立つ。

#### ■今回の津波避難訓練について

問3 今回の津波避難訓練で避難した場所を教えてください

場所	回答者数	回答率	場所	回答者数	回答率
県立大学小浜キャンパス	98	40.2	温水プール	2	0.8
働く婦人の家	79	32.4	市庁舎	1	0.4
若狭総合公園	24	9.8	チャンネルO	1	0.4
県立大学福谷公舎	11	4.5	雲浜コミュニティセンター	1	0.4
小浜神社	8	3.3	内外海コミュニティセンター	1	0.4
今富コミュニティセンター	7	2.9	妙楽寺駐車場	1	0.4
加斗コミュニティセンター	6	2.5	(株) ライフサービス	1	0.4
山王前会館	3	1.2	計	244	100.0

回答率	97.2%
-----	-------

《回答結果の考察》

・津波を想定した訓練であり、「高台等への避難＝県立大学」という認識を持った住民が多いことを示した結果といえる。

■今年1月の能登半島地震時の行動について

問4 2024年（令和6年）1月1日に発生した能登半島地震ではどこに避難されたか教えてください

場所	回答者数	回答率
県立大学小浜キャンパス	51	20.9
同じ建物の上層階	35	14.3
市外 <sup>(※1)</sup>	25	10.2
屋外の高台や裏山	24	9.8
市等の施設 <sup>(※2)</sup>	18	7.4
その他の屋外	16	6.6
その他 <sup>(※3)</sup>	75	30.7

計 244 100.0

回答率 97.2%

(※1)の主な内訳：上中3、熊川宿1、今津1、おおい町1、プラント1、名田庄道の駅1、神戸1、愛知1、その他9

(※2)の主な内訳：市役所7、若狭総合公園7、口名田総合運動場2、小浜病院1

(※3)の主な内訳：避難していない38、知人宅6、仕事中5、地区内の建物2、県外2、道の駅1、他地区1、実家2

《回答結果の考察》

・「津波がくる＝高台等への避難＝県立大学」という認識を持った住民が多いことを示した結果である。  
海や川から離れるために、高い所や内陸に避難したという内容の回答が多いことから、津波避難への意識が高かったものと考えられる。  
・一方、避難していない住民（※3の主な内訳参照）も16%を占めている。

問5 避難された場所までの移動手段を教えてください

手段	回答者数	回答率
自動車	105	49.1
徒歩	82	38.3
自転車	4	1.9
バイク	0	0.0
その他	23	10.7

計 214 100.0

回答率 85.3%

《回答結果の考察》

・今年1月の能登半島地震における津波避難においては、約半数の方が移動手段に自動車を利用したという結果となった。交通渋滞という避難における課題も生じたことから、市は、今回の総合防災訓練で、沿岸地区の住民へ徒歩避難を呼び掛け、「徒歩」による避難を実施していただいた。今後も、避難は原則「徒歩」という理解促進を住民に図っていく必要がある。

■「津波注意報」「津波警報」「大津波警報」について

問6 (1)「津波注意報」「津波警報」「大津波警報」という言葉を知っていますか

選択項目	回答者数	回答率
1つ知っている	46	19.3
2つ知っている	31	13.0
3つ知っている	144	60.5
全て知らない	17	7.1

計 238 100.0

回答率 94.8%

(2) 予想される津波の高さの違いによって、発表される項目が変わることを知っていますか

選択項目	回答者数	回答率
知っている	181	76.7
知らない	55	23.3

計 236 100.0

回答率 94.0%

(3) 気象庁は、地震が発生してから「約3分」を目標に、津波に関する発表を行うことを知っていますか

選択項目	回答者数	回答率
知っている	121	51.7
知らない	113	48.3

計 234 100.0

回答率 93.2%

【津波警報・注意報の種類】

	発表される津波の高さ
大津波警報	10m超 (10m < 高さ)
	10m (5m < 高さ ≤ 10m)
津波警報	5m (3m < 高さ ≤ 5m)
	3m (1m < 高さ ≤ 3m)
津波注意報	1m (0.2m ≤ 高さ ≤ 1m)

(4) 「津波注意報」「津波警報」「大津波警報」が発表された時点で、住民はただちに高い場所（屋外、道路、施設など）へ避難しなければいけないことを知っていますか

選択項目	回答者数	回答率
知っている	205	87.6
知らない	29	12.4

計 234 100.0

回答率 93.2%

《回答結果の考察》

・令和6年4月頃に、市が津波ハザードマップを市内全世界に配布したこともあり、津波に関する情報の発表内容や避難行動に対する沿岸地域の住民理解は、比較的浸透してきていると捉えている。今回の訓練やアンケートを通して「知らない」と回答した方への、今後における知識の習得促進にもつながったと考えられる。

■今後の自分自身の防災について

問7 今年1月1日の地震・津波警報や今回の津波避難訓練を体験し、地震や津波に対する意識や行動は変わりましたか

選択項目	回答者数	回答率
変わった	213	90.3
変わっていない	23	9.7

計 236 100.0

回答率 94.0%

《回答結果の考察》

・地震・津波に対する住民の防災意識の高まりを表す結果である。引き続き、地域の住民や自主防災組織等に対し、防災意識の啓発を図る。

問8 (1) 〈問7〉で「変わった」と回答された方のみご回答ください。

具体的にどのように変わりましたか（複数回答可）

選択項目	回答者数	回答率
避難場所や避難経路、避難にかかる時間を確認した。または今後確認したい。	129	39.2%
災害時における家族との連絡手段など、家族と防災について話すようになった。また今後話したい。	98	29.8%
非常用持出袋や備蓄物資を準備し始めた。または今度準備したい。	98	29.8%
その他 <sup>(※1)</sup>	4	1.2%

計 329 100.0%

(※1)の内訳

- ・今まで他人事だったが自分の住んでいる所で警報が出て避難をする身近な事と考えるようになった。
- ・地域の人（婦人）と集まって、避難の事、防災の事を話しあった。
- ・より具体的に防災の事を考えるようになった

(2) 〈問7〉で「変わっていない」と回答された方のみご回答ください。

「変わっていない」理由を教えてください（複数回答可）

選択項目	回答者数	回答率
日頃から地震や津波の災害に備えている（備蓄物資等を常備している等）	15	78.9%
大きな災害は発生しないと考えている	3	15.8%
災害が発生しても、自分は大丈夫だと考えている	0	0.0%
その他	1	5.3%

計 19 100.0%

《回答結果の考察》

・訓練に参加された方は、平常時から、高い防災意識や災害への危機意識を持っていることを示している。

■総 評

- 訓練に参加された方の防災意識は高く、1月1日における津波警報の体験や今回の津波避難訓練を通して、避難行動をはじめとした防災への意識がさらに高まった。
- 1月1日の津波警報発表時には、車での避難が多かったことから、交通渋滞の発生という「避難における課題」が生じたが、今回の訓練において、市が、分散避難や原則徒歩避難を周知し、それを住民の方に実行していただいたことで、今後は渋滞の改善は図られるであろうと考えられる。
- 津波注意報や津波警報などが発表されても避難をしなければならないことを知らない方もおられたため、津波警報等の発表時には避難行動をとっていただけるよう、今後も市は、あらゆる機会を通じて啓発を行っていく必要がある。